

ペレットストーブの使い方

ペレットストーブは環境にやさしい暖房器具ですが、ペレットに火が付き、部屋が暖かくまでに時間がかかるため、朝急いで部屋を暖めたい時などの暖房には向いていません。夕方や週末など、長時間キッチンで過ごすときに使ってください。

1. ペレットを入れる。

一袋10kg入りのペレットだと、一袋全部入れられます。袋の口を半分ぐらいハサミでカットして入れてください。



袋の口を半分切って



ストーブの上蓋を開けて



ペレットを全部入れます

2. 起動から消火まで



起動

運転スイッチを押します。燃烧ポットにペレットが供給され、3分から5分で着火します。燃烧室が暖まると、温風が出てきます。



運転

温風が出てきたら、ダイヤルで火力と温風量を調整します。



燃焼空気量調整

燃焼空気は、ダンパで調節します。ダンパ調節レバーを引き出すと空気量が増え、押し込むと空気量は少なくなります。



消火

運転スイッチを押すと燃料供給が止まります。燃焼室の温度が下がると完全に停止します。

3. 毎回使用前のお手入れ

燃焼ポットに灰がたまると、ペレットが完全燃焼しなくなり、燃料効率が悪くなるだけでなく、排気筒にススがたまりやすくなります。面倒ですが、必ず燃焼ポットの掃除をお願いします。



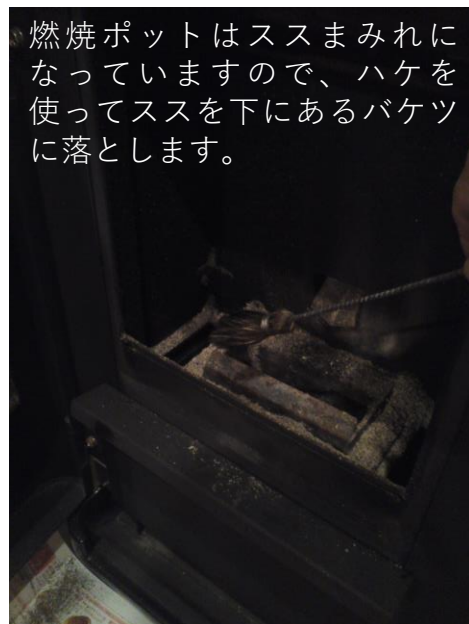
燃焼ポットの清掃の際はペレット内の灰が床に飛び散り汚れてしまうことがあるので、オレンジの大きなチリトリ（正式名称：テミ）に新聞紙を敷いて、ハンドルを写真のように右手の穴に差し込み、ハンドルを奥に押しと扉が開きます。



テミに新聞紙を敷いて



扉を開けて



燃焼ポットはススまみれになっていますので、ハケを使ってススを下にあるバケツに落とします。

ススが飛び散らないよう注意

燃焼ポットを取り出します（汚れますのでゴム手袋をした方がよいかも）。ポットの中の燃えカスをテミの新聞紙に出して、ポットの裏側からカスを押し出すとカスがなくなります。



ポットを手で取りだします



たまった燃えカス



ハケでカスを押し出す

時間があれば、窓ガラスの裏側についたススもハケで落としてください。ハケを濡らしておくと、きれいに取れます。この後、濡れたティッシュでガラスをこすり、最後に乾いたティッシュで水気を拭き取ればきれいになります。



少し面倒かもしれませんが、燃える炎を見ていると体だけでなく心もあったまりますので、疲れた時などには使ってみてください。